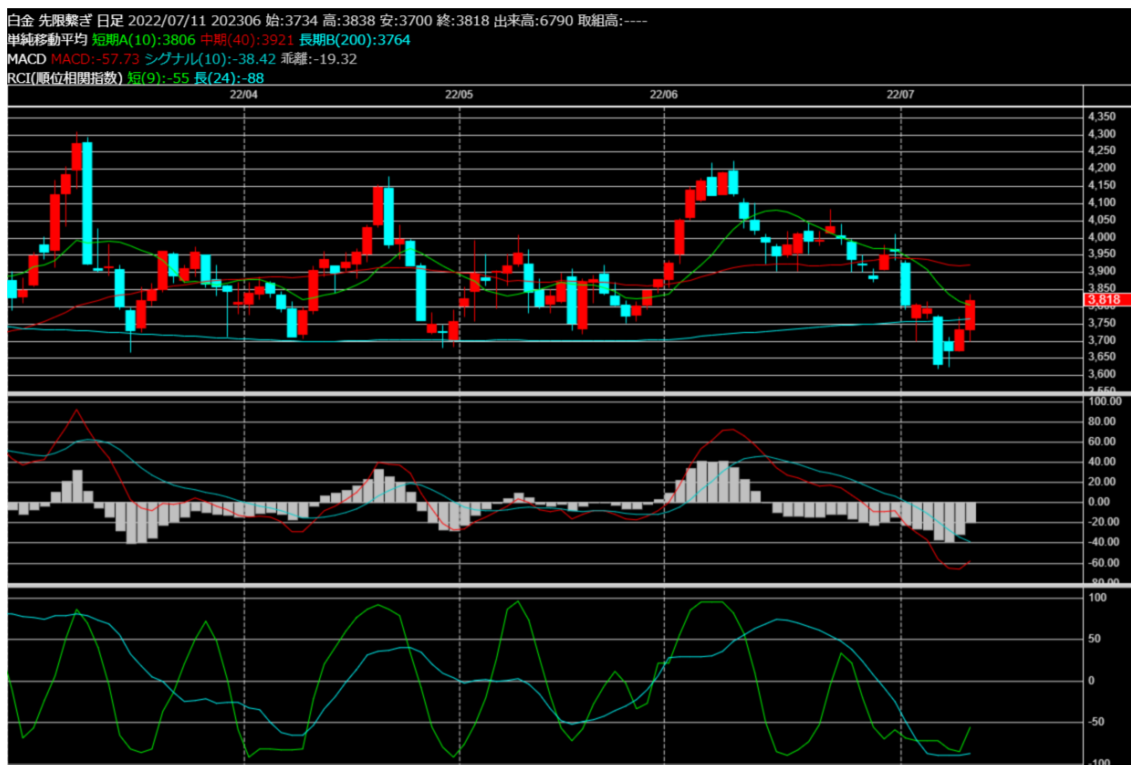


＜白金標準先物、3921 円へ向けた自律反発の域・・・＞



(出所：オアシス)

ユーロ圏 CPI が 8.6% なるなどインフレ率が上昇し、ISM 製造業景気指数でも新規受注と雇用で好不景気の分岐点である 50 を下回るなどリセッション懸念が高まりを見せた事で、白金標準先物は 3700 円まで下値を試しながら下げ渋る動きを示すなど、3 月以降の 3700 円の抵抗帯を確認している。しかしユーロのスイスフランやドルに対するユーロ売りから金価格の大幅下落を受けて 3700 円を下回ると 3618 円までアンダーシュートの値動きを見せている。特に週末の雇用統計では、非農業部門就業者数が事前予想を上回るなど景気後退を払拭する動きを見せており、またウォラー理事とブラード・セントルイス連銀総裁は、0.75% の利上げを支持する考えを示唆する一方で、米国経済がリセッション入りに向かっているとの懸念については、なおソフトランディング（軟着陸）は可能だと指摘するなど、行き過ぎた織り込みの巻き戻しが予想される。

特に今週はドイツ ZEW 景況感指数、米国 CPI、中国 GDP などの発表が予定されており、主だった経済指標を織り込みながら白金標準先物が 3900 円を回復する巻き戻しの値動きが起こるか注目される。

＜テクニカル＞

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が反転し、**シグナル** は下げており、ヒストグラムは縮小している。また RCI では **短期** が **長期** を上回る状態で切り上げだし、**長期** も下げ止まるなど下げの峠を越えた雰囲気でもあり、そのため日足が **40 日移動平均線** の位置する 3927 円へ向けた戻りが予想される。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,590,000 円(2022 年 7 月 11 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022 年 7 月 11 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>